



在京古高同窓会会報
第24号
 〒150-0043
 東京都渋谷区道玄坂1-15-3
 プリメーラ道玄坂110号
 信陵会館内
 在京古高同窓会事務印
 ☎ (03) 3462-1111
 FAX (03) 5489-1358
 発行責任: 佐藤 廣雄
 編集責任: 萩沢 法雄
 編集長: 千坂 孝夫
 印刷: (株)ケーヨー

年頭のご挨拶

会長 伊藤 宗一郎



在京同窓生の皆さん、明けましておめでとーございます。
 日頃は、同窓会活動に色々ご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、七月の総会には、同窓生で就任したばかりだった大沼康哉学校長を迎え、賑やかに催されました。また、当日の記念講演も同窓生の渡辺三男氏で、地球環境の問題についてでありました。還暦後に勉強を始めたとの事ですが、内容も考えさせられました。今風のパソコンを駆使しての説明などにも、学ぶ処が多かったように思います。

来る古川市内四校の新年の集いは、例年とは趣を変え、講演に換えて『新春コンサート』という、音楽の演奏会を企画しておるようであります。更に故郷大崎の歌、皆で唄える歌『四つ葉の仲間たち』が出来、その披露も兼ねるとの事なので、期待をしたい。

低迷していた景気にも、やっと上昇気流が近づいて来つつあるとの予感がされる昨今であります。政治の難しさは、同じ国民でありながら、国民らしからぬ考えを持った人達も、種々の考えを持つた人達も、全てが国民であるという処にその難しさが有ります。

同窓会も同様に、同窓会の会員は同窓生の皆が会員であり、協力してくれる人も、くれない人も、また案内に返事をくれる人も、くれない人も、すべて会員である事に変わりがないのであります。

政治、特に私に関する国会運営について触れさせていただきますと、『法律製造機』などといわれるほど順調であります。これは議長選出の際に、野党を含む全議員100%の支持によって選ばれた議長だからだと自負しているところでもあります。

その自分を育て、支えてくれたのは、やはり大崎平野であり、山や川、野原の風景であり、故郷の人情だったのであります。

今年、辰年にちなみ、昇龍の年にしたいと存じます。

同窓生皆様の益々のご健勝とご多幸、ご繁栄を祈念申し上げて、年頭のご挨拶と致します。

お知らせ

第7回古川市内四校合同新年会

- 日時: 平成12年1月30日(日) 11:30~15:00
- 会場: 上野精養軒
- 会費: 8,000円
- 新春コンサート/四校歌の発表会
- 交通案内: 上野公園園口より徒歩5分



上野公園4番58号
 電話 (3821) 2181

今回は本会が幹事校です。
 会を大いに盛り上げましょう。
 “古川産品”の販売もあります。

在京同窓会メモ

- 信陵会館は井の頭線渋谷駅線路沿いです。
- 会計年度は6-5月、年会費は一口2000円、何口かお願いできればありがたく存じます。
- 会運営のため、同封の振替用紙での納入をお願いいたします。
- 次回会報第25号は7月1日発行予定。原付、広告等は常時受付、事務局まで下さい。

古高の転機

学校長 大沼 康哉 (高12回卒)



新年おめでとうございます。在京同窓会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は在京同窓会総会にお招き戴き、誠にありがとうございます。伊藤会長さんをはじめ多くの同窓の皆様にお目にかかり、大変嬉しい一日となりました。ほとんどの皆様と初対面でしたが、温かなご配慮により、ごく自然に一員と

させていただき、やはり、お互いに古高だという気持ち強くしました。また、終了後、三五会(昭和三十五年古高卒の同期会)の皆様とお会いし、生涯忘れられない思い出となりました。同窓の皆様にも心より御礼申し上げます。

さて、現在宮城県では生徒数の激減期を迎え、高等学校の再編が大きな問題となつています。それにとらなつて、母校は創立以来かつて経験したことのない大きな転機を迎えています。紙面の関係で大崎地区の状況のみを記載させて頂きます。

現在、大崎地区に公立高校が十二校あり、生徒数は約三〇〇〇名ですが、平成二〇年には約二〇〇名になつてしまっています。県では、高校を統合や廃校により、九校程度にする考案を公表しました。それと同時に、浅野知事は男女共同参画社会の実現を目指し、県立の全ての高校を男女共学にすることを発表しました。大崎では古高と古川女子高が男女共学の対象となります。まず、男女共学を受け入れ

るかどうかが、第一の問題となります。

次に、男女共学にするすれば、二つの方法があります。一つは、両校がそれぞれ女子生徒、男子生徒を入学させる方法(学校数は変わらぬ)、もう一つは、両校を合併して一つの学校にしてしまう方法です。

後者の場合は、県の財政事情により、新しい校地を求め、そこに新しい校舎を建設することは考えられないので、古高古川女子高のどちらかにまとめてしまうことになりそうです。最悪の場合は、古高が現在の校地を離れて合併し、古川女子高の敷地に男女共学校ができることもありうる状況にあります。(可能性は少ないと思いますが)。野村同窓会長も心配なさっているようです。

現在、県教委で具体的な案を作成すべく検討が続けられていて、まだはっきりしたことは決まっています。県の予定では、今年度中に中間案(具体的な学校名を含む)を作成し、次年度それを再度検討して、正式決定とすることになっています。大崎ばかりでなく、県内全地区でこの高校の統廃や男女共学をめぐる、今後様々な動きが予想されます。その中で、古高も百余年の歴史

のなかで経験したことのない岐路に立たされていることを同窓の皆様にお話させていただきました。まだまだ報告申し上げたいこともございますが、紙面の関係でおゆるしいただきたいと存じます。

新年早々、厳しい状況をお知らせすることになり、衷心よりお詫び申し上げますとともに、一層のご支援をお願いします。在京同窓生の益々のご発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

母校の今

「学校の活性化を目指して」

生徒会長 岩本 英敏



今、古高生一人一人が学校に対しての意欲が非常に欠

けているのです。最近ではそのことが学校生活に大きく影響し、遅刻・早退者が多く「これが古高生か？」という意見もしばしば耳にします。このような状況は今すぐにもなくさなければなりません。

生徒会執行部ではこれを非常に重く見て、討議をした結果、こういった気持ちの現れは、生徒一人一人が目標を見失っていることに原因があるのではないかととなりました。何か目標を設定することで、『学校に行きたい。』という気持ちが生まれ、そうする事で遅刻・早退者がだんだん減っていくのだと考えました。そして、古高生一人一人に目標を持ってもらうためにも、行事を活性化していきたいと思えます。そこで、我々生徒会執行部では生徒のアイデアを取り入れて、行事を活性化していくかと思っています。

古川高校には、個性豊かで内に秘めた能力にまだ気付いていない人がいます。そういった人達の色々な能力が一つになった時、古川高校は本当に素晴らしい学校になるのです。私、岩本英敏が中心となって、学校の活性化を目指していきたいと思えます。どうぞ今後の我々の活躍にご期待下さい。

「野球部の現状」

野球部監督 河本 聡



今年度の野球部は、この何年かではなかなかの戦績を残すことができませんでした。大崎地区大会では春季・秋季とも「優勝」することができました。地区優勝により、宮城県大会へ第一代表として出場したのは、春季優勝は五年ぶり、秋季優勝は四年ぶり、ここ数年遠のいていた優勝カップを手に入れることができました。また、春・秋とも優勝は平成では初めてと久々の快挙となりました。

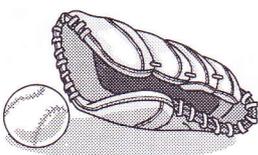
夏の甲子園予選大会も、好ゲームが続き、ベスト16入りを果たしました。現在は、来春の地区大会、宮城県大会出場を目指し、地道な練習に励んでいるところです。

百年を越す歴史をもつ古川高校も、現在は様々な局面で岐路に立たされています。その一つに、生徒の部活動離れが挙げられます。どの運動部も年々部員が少なくなっており、野球部も新チーム(一・二年生)で十六名と近年は非常に少なくなりました。その原因は様々だと思えますが、端的に述べると校訓でもある「質実剛健・文武両道」に合う子どもが少なくなっているように思われます。少人数でも鍛えられる面も多くありますが、やはり大勢の部員で「切磋琢磨」してこそ、レベルアップできるの

です。これは、野球部に限らず古川高校の運動部の多くに見られる現状です。

来年度は、今年の成績を一つでも伸ばせるように生徒に期待を寄せています。今後も、応援をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、数年前より、各方面へ要望しておりました「第二グラウンド(野球場)」の整備が、今年数回の改修を経て、この度、百周年記念事業協賛会の御厚意により、これまでになく規模の改修工事をしていただくこととなり、桑折信也部長ともども、誠に失礼ながら、紙面に厚く御礼を申し上げます。



「剣道部の活動状況」

剣道部顧問 菅野 良信

伝統ある古高剣道部の顧問となつて八ヶ月が過ぎようとしてい。この間に、県総体(予選敗退)、国体予選(ベスト8)、県新人(ベスト16)等大会に参加してきたが、思うような成績が残すことが出来なかった。過去には、県第二位、第三位という結果を残している部であるが、専門の



顧問が居なかった事もあり、この数年は今一つであった。私自身古高に専門の先生が居たら、もう少し他校から恐れられていたに違いないと思っている。又入学してくる生徒もいいからである。

今、剣道部は変わりつつある。第二体育館が完成し、新たな気持ちで練習に励んでいる。これから、部員と一緒に新たな歴史を作れるように自分の持っているものをすべて教えていき、良い結果が残せるよう、そして部活動をやってきてよかったと思えるよう頑張っていきたいと思っている。

「よくわかる環境問題」 発刊

定価 1600円

出版社 (株) オフィストゥワン
TEL 03-3988-3911

税理士 渡辺 三男 (昭和18年卒)
〒123 東京都足立区西新井本町1-16-12-510
-0845 TEL 03-3896-2707
FAX 03-3896-2284

皆様のお力をお貸しください!

●企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受発信

古川市東京事務所

所長 佐藤 吉昭 (S40卒)
副所長 藤本 重吉 (S50卒)
主事 熊谷 賢一

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)
TEL. 5818-6432 FAX 5818-6431

同窓会だより

年頭の「あいさつ」

古高同窓会長 野村 喜太郎



同窓会並びに古高にとつて大事なこと二つ報告致し、新年の挨拶と致します。

一、同窓会名簿作成について

平成十一年の同窓会総会に於いて、名簿作成の決議を得ましたので、平成十二年秋に完成発行出来る様契約を済ませました。住所・卒業年次等問い合わせの文書が近いうち皆様に、業者から配布されますので正確を期す為、必ずご返事出す様お願い致します。

二、県内高校の

男女共学推進について

小・中学卒が減少するに伴い、公立高校の学級減に対応して居りますが、次の段階で統合・廃校の形をとらざるを得ない状態になって参ります。又、宮城県は高校の男女共学率が国内で低いとのことで、浅野知事は共学推進を政策の一つとして掲げて居ります。県段階で大崎管内では古高と古川女子高の合併が考えられているとの情報です。その際、男女共学高校を新設するのではなく、古川女子高に古高を合併するのではないかとのことです。理由は、女子高の敷地が古高より広いからとのこと。

近い将来、「^四」の古高の存続は危うくなって参ります。

県の男女共学推進に就いて、既に新聞紙上に発表になり、県教委では県内各地区で公聴会を開催致しましたが、賛否両論ある様です。これに対し、仙台一高の生徒会が猛反発し、男女共学反対のろしをあげて居ります。

これから古高、女子高の生徒会は勿論、両同窓会のご意見等活発になることと思われませんが、在京同窓会からも貴重なご意見等賜ります様お願いし、ご報告と致します。

同窓会活動の近況

古高同窓会事務局長 佐藤 彰



在京同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、創立百周年記念事業として竣工致しました「凌雲文化センター」は、演劇部やブラスバンド部の日常活動に、また小集会の場と大いに活用されています。さらに、市内高校演劇部の活動拠点にもなっており、まさに大崎文化の発信拠点になろうとしております。さて、本部同窓会は、昨年八月

の総会において役員改選がありました。記念事業も一段落、役員を退任したいという申し出が八名おりました。同窓会副会長として長年に渡りご尽力戴きました日野恭一郎氏(中四十回卒)が退任、後任に西巻正規氏(高六回卒)が入り、常任委員は各支部長にお願いし、横の連携を強化、委員には若手を補充して承認されました。

ところで最近の少子化現象は、ここ大崎にも大波となって押し寄せており、その結果、古川高校は平成十一年度入学生から一学級減で七学級二八〇名編成となりました。今後は六学級編成も予想されます。この結果、同窓会の収入が減少、今後の活動に支障を来す恐れがでてきました。

同窓会の規約では、会の運営は古高入学時の新入生による入金金千円と終身会費三千元を卒業年次に納入、寄付金その他を持ってあてるとなっています。そこで新入生会費を三千元に値上げすることでご承認いただきましたが、結果的に収入減を生徒に押し付けたかたちになってしまい、事務局としては大変心苦しく思っております。今後は、これ以上生徒に負担をかけない方法で増収を計りたいと考えております。

もう一件は、同窓会新名簿作成に関する件が承認されました。現在の名簿は百周年記念事業の一環として平成六年三月に発行されたもので、すでに六年には役が立たず、五年に一度のペースで発行してほしいと強い

要望が多く同窓生からありました。役員会で協議の上、同窓会名簿作成専門会社である(株)サラトと委託契約をむすび、平成十二年十一月発行予定で作業を開始しました。

つきましては、全会員の住所などの正確な情報を把握するため、前回名簿、卒業生名簿をもとにした内容を調査カードに記して、近々、各人毎にお送り致しますので内容をよくお確かめの上、必ずご返送くださいますようお願い申し上げます。

また、名簿は会員のみ予約販売とし、予約者以外は原則として入手できませんので、是非ご予約くださいますようお願い致します。

なお本会とは関係のない業者が「職業別名簿」等の発刊を企画し、会員の皆様にはがきによる案内や販売を行うことがありますが、本部同窓会とは一切関係ございませんので「ご注意下さい」。名簿作成にかかわる経費は、名簿予約、広告掲載などによりまかなわれます。どうか古高同窓会発展のためにも、ご協力をお願いしまして本部事務局の近況とします。

在仙古高同窓会50回総会

への出席報告
事務局長 佐藤 廣

在仙古川高校同窓会の50回総会が、去る十二月四日(土)に、仙台東急ホテルを会場に約百名の参加を得て開催されました。



伊藤 宗一郎氏の講演

四時から総会が、順を追って進められ、三浦良会長代行の挨拶から始まり、母校の大沼康哉学校長の挨拶までが無事終わりました。引き続きの講演会は、衆議院議長伊藤宗一郎氏(当会の会長でもあり)の講演でした。国会開催中で忙しいところの時間を割いての講演でもありました。

その中で印象の深い言葉を紹介しますと、『政治の使命は、世論の啓蒙にあり』と云うことでした。また、只今は『国会の審議の活性化(スピード化)に尽力を注いでいる』とのこと喝采をおくりたい。

その後の懇親会は、何時もの如く賑やかに進められ、来賓の挨拶が続きました。

その中で、小野田町長 古内栄輝氏、色麻町長伊藤拓哉氏、中新田町長星明朗氏、岩出山町長佐藤仁一氏等自治体の方々がおられました。出席者は、旧制中学二十八回・昭四年卒の三上馨一氏から、高校三十六回・昭五十九年卒清水川氏まで約百名、その内約25%が旧制中学卒者でした。

在京古高同窓会からの出席者は、当日の講師である伊藤宗一郎会長、春田紘輔会長、佐藤廣事務局長の三名でした。

新春コンサート・四校の歌 発表

第七回大会古高が主幹事、

企画で深まる友情を期待

事業委員長 佐藤 公哉

四校の結束と

協調と持続と

古川市内四校関東支部新年会も今年で七回目を迎える。四回目は、在京古高同窓会が幹事校としてお世話役に当たってきた。しかし回を重ねるに従って、マンネリに陥ることから各校持ち回りでどうか、そして毎年幹事校なりの特色をだしていこうと。ただし要望により、女子高だけは物産展を担当するので、この任には当

新春コンサートの実現と

四校の歌が出来たこと

事務局長 佐藤 廣

(1)新春コンサートの実現!!

はじめに、平成十二年の一月に開催される四校合同新年会を取り仕切る事になる主幹事校として、古高(同窓会)が担当することに なっており、古高らしい会のイベントを考え出さねばと頭をいためていました。

西暦二〇〇〇年にふさわしいイベントとは何かと、また、講演会とは違ったもので試行錯誤している時に、佐藤事業委員長から演奏会はどうかと提案があり、専門家である曾根氏(古高三〇年卒)の知恵を借りることになったものであります。

四校の幹事会で、構想について了解を得て、本格的に計画を練っ

たらないことになった。そこで一昨年が工業、昨年は商業が担当。偶然にも二〇〇〇年一月三十日の第七回大会は、古高が担当となった。毎年一月最終日曜日、上野精養軒に懐かしい面々が集い、総会、講演会、懇親会と続くのがな

らわし。そして日をおいて四校の幹事たちが集まり、結果報告と反省の会が開かれるのである。和気藹々と会は進むが、いつも話題になるのが物産展と講師のこと。

「新しい試み」コンサート

七月の在京古高同窓会広報誌

でもらうことになりました。四校の同窓生、三人の名前が挙げられ、本人達の好意も有りまして、少ない予算でやって戴くことになりました。佐藤事業委員長と曾根研一

幹事の二人のご努力と、成田氏・相澤氏・野間さんの三人の好意で実現することになりました。深く感謝しております。この新春コンサートを成功に導き、皆様と共に感動を分かち合いたいと存じます。同窓の皆様にも期待して戴き、会場には是非お出かけ下さいませう伏してお願いを申し上げます。

(2)四校の歌が出来た!!

四校の幹事会で「フィナーレにみんなで唄える歌を唄いたい」との提案がありました。フィナーレで盛り上げれば最高だ。みんなで唄えるもの、題名は???愛唱歌としての「大崎の歌」ふるさと大崎耕土」などの歌が

「笛雪」に事業委員会報告として、次のように書いている。勿論私見ではあるが、「四校と言えば、一月の新年会のメインは古高。第二部懇親会を含めて、第一部の講演会の在り方について、いろんな意見が出るだけに考え直す必要はないか相談してみよう、と思う会員の中に曾根研一さん(三〇年卒)という東京混声合唱団名事務局長がいる。またその世界に多士済々の会員が存在していることに、「音の世界を取り入れてみてはと考えてみている」と。「変える」ということは勇気のいること。古高のことだけでは足りない。四校の同志の代表の方々の同意を得るだけの内容を準備しなければならぬのである。有言実行。

が、要望ができました。公募してはどうかとの意見も出た。

四校幹事会の三日後に、佐藤事業委員長から電話で、歌が出来たので見てくれとの連絡があった。数日後、作曲された楽譜が届いた。又数日後には、テープに吹き込みが古川まで出掛けてくる。次回の四校の幹事会までに、テープに吹き込み、聴いてもらい、承認を得る為である。

四校幹事会の全員で聴いた結果、承認され、進めることになった。四校の幹事会で、テープの作成について議論され、販売の話もしたが、新年会出席者全員に記念品として配ることにした。

いづれにしても、佐藤公哉氏、鈴木芳郎氏、福原寿郎氏の熱意があったればこそ実現できたものであり、感謝に堪えません。誠にありがとうございました。



ピアノ 野間さん



バリトン 成田さん



フルート 相澤さん

同窓生に豊富な人材

七月の総会終了後、曾根さん、佐藤廣局長に相談しながら、「音の世界」で活躍している会員を推挙してみると十数名もいた。中には、二十七名の団員を抱えたジャズバンドの主宰者もいた。しかし会場の音響関係で演奏規模があり、またそれぞれのメンバーがスケジュールの都合があるため、なかなか会員の調整と見通しが見つからない。しかし別記の通り、声楽家成田さん(古高六二年卒)、フルート奏者相澤さん(古高六二年卒)、ピアノスト野間さん(古高六三年卒)以上三人のご好意により、初めての顔合わせとなったのである。このことについては、当会の趣旨と詳細にわたる役員会の説明で了解をとり、九月十七日、四校の幹事会に図った。幹事会でも新年会の方向づけに変化を期待していたらしく、会の名称、時間的配分以外特に問題はなかった。第二部の内容によっては新年会の出席者の増減につながるが皆が心配の初めの試み「演奏会」に関

心が集まった。とにかく一応やる方向で決定し、詳細は幹事校の古高に任せられ四校初めての演奏会実現の運びとなった。

四校の歌がほしい...

会議終了後、雑談をしているときに誰となく「四校の歌がほしい」と言い出した。「懇親会の最後に歌う歌「ふるさと」のような歌「各校の校歌じゃ能がない」「宗幸につくらせたら・・・」とさまざまなことを皆思いつきで言い合った。その後、工業の松下さんが「それは公哉さんだな。この人ならすぐつくるよ」と冗談めかして言うので、小生が「一年くらいかけて公募したらどうか」といったもののこの幹事会では歌が欲しいという結論で話は終わった。平成四年四校合同新年会を私が提唱したとき、歌もあつた方がいいだろうと思つたが、四校合同新年会を実現することが大切だったので、平成五年の第一回からは歌のないままに始まった。それだけに幹事校が古高のこの年に演奏会を開くことになったりするの何かの縁だなあと思つた。それでも誰かが歌を作るだろうと期待してはみた

「四つ葉の仲間たち」の誕生

ところが九月十七日深夜、「四つ葉の仲間たち」を作詞してしまつたのである。アイデアは「四つ葉の仲間たち」というフレーズであった。善は急げ、早速郷里の先輩である鈴木芳郎さん(二十七年卒)に作詞の理由を告げ、詞をファックスした。そして十月半ば

迄に作曲してくれるようにお願いしたのだった。鈴木さんは元小学校の先生、独学ながらすこぶる作曲のセンスがあり、アコーディオン奏者としても今、宮城県で右に出る者はないといわれている。

私が古川に住んでいた頃、鈴木さんとコンビで作った歌は「古小タイガース団歌」など七曲ほど。昨年六月には角田市の精薄施設の園歌「はぐくみ音頭」を制作しており、心をよく知った仲。数度に渡る電話でのやりとり、打ち合わせの上、十月十日には曲ができあがった。

たたき台が肝要

さて今度は古高の役員会で同意をとり、四校での賛同を得るために歌を歌ってくれる人が必要である。偶然にも鈴木さんの仲間である

新春コンサート

果たすよろこび



企画・構成 曾根 研一

昨年夏の在京古高同窓会会報に、「来年の新年会は『音』の世界をとりいれてみたい。相談する会員に・・・」と、私の名前が載っているのを見た。案の定しばらくして、事業委員長の佐藤公哉君から呼び出されて役員会に出席したところ、「市内四校新年会で、これまで行っていた講演の部を来年は音楽にしてみたい。ついては、何

原寿郎さん(五〇年) 古川市長

中川さんの甥、両親は元学校の教員。現在東小野田小学校教務主任一七八センチ、剣道四段、巨体ながら優しい歌い方をする同窓生がいたのである。三人のスケジュールがなかなかあわない。思い切って十月十二日古川西館鈴木さん宅に行く。案の定、福原さんにも勤務後予定があったが、予定を変更し、車で駆けつけて貰ったのである。そして、福原さんは「四つ葉の仲間たち」を鈴木さんの演奏するエレクトーンで二度聞き、三度の歌の練習の後、見事に歌いこなしたのである。ここで録音を終了。「四つ葉の仲間たち」が誕生したのである。詞・曲・歌と三拍子そろって一応満足。喜びの乾杯をした。

こんな組織も歌も、

古川四校だけが持つ

この古川市内四校関東支部の「四つ葉の仲間たち」は十月十五日の古高役員会、十月二十九日の四校幹事会で聞いていただき、皆さんの喜びのご賛同を戴いた。これから東京のスタジオでシンセサイザーをバックに福原さんがレコーディング、一月にはテープを制作。これら制作は、曾根研一さんが担当することにし、一月三十日の新年会には、参加した人に記念に配布することに四校幹事会では考えている。日本で唯一の組織、歌を持てるのは古川市内高校関東同窓会だけである。誇りを持つとう。一月三十日の新年会には多くの方の出席を願い、皆で「四つ葉の仲間たち」の歌を声高らかに歌いましょう。

か企画を考えてほしい」とのことだった。

公哉君は二年後輩。何処でいつ知り合ったかいまだに思い出せないが、昭和三十三年、彼が大受験で上京した折り、私の三畳間のアパートにころがりこんで来て、チョッピリ世話をしたようなことがあったことを思い出す。

そこで、日頃仕事で同窓生の音楽家と会うことが時々あるの、郷里出身者でのコンサートが行えないかと考えた。あまた音楽関係者がいるが、まず、東京交響楽団の首席フルート奏者である相澤政宏君(六二年卒)と日本声楽コンクールで第一位になり、オペラや宗教曲のソリストとして活躍しているバリトンの

成田博之君(六二年卒)に声をかけたところ、それぞれがスケジュールを工面して下さった。しかし、ピアノ伴奏者を探さなければならぬ。相澤・成田両君に四校出身者でピアニストは知らないかと尋ねたが即答がなかった。ところが、顔の広い公哉君が「女子高で私の娘と同級生の野間さんがいる」と、早速音楽教師として古高と岩高で過ごされた古高合唱団の一年後輩である友川君(古川音楽鑑賞協会代表)にも相談したところ、やはり野間さんの名前が出てきた。野間春美さん(古女・六三年卒)のお名前は、NHK東京放送児童合唱団の伴奏者として著名だが、私も女子高出身者とは知らなかった。そして、彼女からも快諾を受け、ミニコンサートが実

四つ葉の仲間たちの生みの親



作詞 佐藤 公哉氏



作曲 鈴木 芳郎氏



歌 福原 寿郎氏

四つ葉の仲間たち

作詞 佐藤 公哉
作曲 鈴木 芳郎

一、花洲・舟形 白雪薄れ
大崎平野に 春が来る
荒雄や鳴瀬 思い出の川
忘れられない 黄金の穂波
また会おう

また会いましょう
四つ葉の 仲間たち

二、季節変わって 時移れども
なつかしあの日 学び舎よ
友は変わらぬ 青春の日々
忘れられない ふるさとの街
また会おう

また会いましょう
四つ葉の 仲間たち

現できることになった。当日は、郷里からこんなにはすばらしい音楽家達が輩出していることを紹介します。

また、四校での役員会で、公哉君が前述しているとおり、懇親会の最後に校歌を歌うのはシラケルと言う意見もあり、「ふるさと(免追いし・・・)」を歌ってファイナレにしようという意見もあったが、それならば「四校で歌える大崎耕土を讃える愛唱歌」を作ってはどうだろうという案が出て、早速その二日後に佐藤公哉君の作詞で「四つ葉の仲間たち」が、そして曲(作曲：鈴木芳郎氏・二七年卒)も出来上がり、当日のコンサートで披露、及び歌唱指導しますので、懇親会の最後にみんなで歌いましょう。(30年卒)

平成11年度総会報告

平成10年度 決算報告

<収入の部>

自 平成10年 6月 1日
至 平成11年 5月31日

Table with 5 columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減△, 備考. Rows include 年会費, 特別会費, 広告料, etc.

<支出の部>

Table with 5 columns: 科目, 決算額(円), 予算額(円), 増減△, 備考. Rows include 会議費, 印刷費, 事務用品費, etc.

会計監査の結果、以上の報告書の通り 間違いありませんでした。

平成11年7月14日

監事 青沼康男 青沼 佐藤清勝



平成11年度定時総会・講演会ならびに懇親会次第

【総会の部】(14:00~14:15)

- 1.開会宣言 (司会 高橋修一 S44卒)
2.校歌斉唱 (指揮 指 揮)
3.挨拶 (副会長 遠山仁一 S25卒)
4.議案審議 (議長 佐藤 廣 S29卒)
5.閉会宣言 (司会)

【講演の部】(14:20~15:10)

- 1.講演開会宣言 (司会)
2.講演者紹介 (副会長 高橋 淳夫 S17卒)
3.演題 「こゝまできた地球環境の危機」
4.講師 渡辺 三男氏 (古中S18卒・フジ会計事務所会長)
5.講演閉会宣言 (司会)

【懇親会の部】(15:20~17:30)

- 1.懇親会開会宣言 (司会)
2.挨拶 (会長 伊藤 宗一郎 S16卒)
3.来賓紹介 (司会)
4.来賓挨拶 (本会副会長 野村 喜太郎 氏, 学校長 大沼 康哉 氏)
5.乾杯 (幹事 横山 榮治 S20卒)
6.懇談
7.スピーチ
8.アトラクション (手品)
9.校歌・応援歌 (指揮)
10.閉会の挨拶 (副会長 春田 結輔 S27卒)
11.閉会宣言(解散) (司会)

平成11年度 予算

<収入の部>

自 平成11年 6月 1日
至 平成12年 5月31日

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 前年実績(円), 増減△, 備考. Rows include 年会費, 特別会費, 広告料, etc.

<支出の部>

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 前年実績(円), 増減△, 備考. Rows include 会議費, 印刷費, 事務用品費, etc.

(来賓)

大沼康哉(学校長) 遠藤教拓(S35) 野村喜太郎(S18) 高橋 卓(S23) 浦 良(S24) 中鉢 清(S29) 佐藤吉昭(S40)

(会員)

- 昭和9年卒: 伊藤守治, 多藤省徳
昭和16年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和17年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和18年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和19年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和20年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和21年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和22年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和23年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和24年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和25年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和26年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和27年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和28年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和29年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和30年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和31年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和32年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和33年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和34年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和35年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和36年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和37年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和38年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和39年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和40年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和41年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和42年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和43年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和44年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和45年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和46年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和47年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和48年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和49年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和50年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和51年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和52年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和53年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和54年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和55年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和56年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和57年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和58年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和59年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊
昭和60年卒: 伊藤宗一郎, 伊藤隆俊

会員による 自由投稿欄

旧制古川中学校第四十五回卒業同級会

在京有志の世話人で、同級会を東京で初めて十月二十二日・二十三日と二泊三日で開催しました。

参加者：笠原真太郎、日野孝慈、宮崎千巖(古川)、高橋敏男(鳴子)、澤口久光(岩出山)、大場隆也(宮崎)、佐々木由貴雄(色麻)、岡本忠男、渡辺章夫(小牛田)、鈴木新人、菅原了(仙台)、渡辺孝壽郎(郡山)、奥山素博(宇都宮)、小野光夫(座間)、佐藤昭(横浜)、照井重雄(市原)、佐々木一司(松戸)、芦立卿一、後藤雅久、青沼瑞夫(東京)

世話人：荒木和郎、熊谷虎夫、佐々木彌治、森谷侑一、横山榮治(東京)の二十五名

は久しぶりの懐かしく、傾ぶれで宴会、語り明かした。翌二十三日朝食後、バスにて出発。レインボーブリッジ・ベイブリッジを通り、鎌倉へ。建長寺・鶴岡八幡宮・大仏と廻り、江ノ島にて昼食、帰路アクアラインより「海ほたる」に寄り、海上より東京湾を見学して、夕方五時過ぎ、銀座サッポロライオン七丁目店で宴会。楽しい一夜を過ごした。翌二十四日、宿舎近くの根津神社を参拝する。タクシーで爺婆の原宿、巣鴨の「とげ抜き地蔵」をお詣りし、「大福」と「団子」でお茶を飲み、別れを惜しみ、又元気で、の再会を期して散会した。盛りだくさんの日程を楽しみ、一生忘れられない思い出になり、本当に楽しい三日間で、同級の皆様有り難うございました。(横山 榮治)



第六回(二九年卒)同期会報告

東京の二九年卒の会は、毎年「古川市内四校新年の集い」の開催日と同じ日に設定しており、今年もその予定をしています。ここで報告する会は、五年に一度開催されている同期全体の会と云うことになります。

去る十一月十三日・十四日に鳴子ビューホテルで開催、恩師二名を含む総数四十二名でした。東京からは、浅野・尾根・佐藤・湯本の四人が参加、講演は吉野作造に、その人となりの中草創期の先輩達との係わりなど、横山寛勝君が話され、興味深く聞きました。その後は、何年かぶりに会う人もあり、賑やかに過ごしました。次回からは、三年おきの開催と決まりました。(佐藤 廣)



大沼康哉君 母校校長に就任 在京同期生会 盛大に祝賀会を開く

「三五会」幹事 嶺岸 宗

在京古高同窓会幹事、佐々木武麿君から同期生の大沼康哉君の古高校長就任が伝播されたのは、七月八日のことであった。在京同期会「三五会」幹事により、大沼君の祝賀会開催が決定された。結城康太君の計らいで、東京随一の眺望が期待できる溜池山王の東京全日空ホテルを確保した。

直ちに会員への電話連絡と、その周知徹底が敢行された。それと並行して大沼校長の都合を打診すると、我々の熱意に快く応じられ、七月二十五日の一泊となった。同ホテルに宿泊用の部屋がキープされ、出席者数も二十余名



を超え、祝賀会の準備はほぼ完了した。万全に万全を期すべく、結城君のルートから讀賣新聞に同級会の開催告知を掲載し、関東一円に在住する多くの同期生に祝賀会開催の案内を發した。祝賀会発案から準備終了までの三五会会員の見事なまでの集中力、会員全体の結束力は特筆すべきことで、この価値ある経験は、今後の会運営の大きな財産となるものと確信した。

七月二十五日(日)祝賀会に先んじて行われた在京同窓会には、黒岩会長を筆頭に、梅沢、大澤、大場(司)、田中、早坂、結城、嶺岸と大沼校長の出身中学から内田将夫君が出席し、大沼校長の来臨を盛大に歓迎した。同会には、同期で現在は母校の事務職を司つていられる遠藤教拓君も同道され、この大感激に更なる華を添えた。午後六時、結城君の案内で大沼、遠藤両君は、祝賀会会場の全日空ホテルに移動し、既に集まっていた大勢の同期生達とはほぼ四十年ぶりの再会を果たした。引き続き、大沼・遠藤両君を囲む形で記念写真を撮影。黒岩会長の歓迎の挨拶、佐々木武麿副会長からの三五会設立の趣旨説明が肅然と行われた後、大沼校長からの近況報告、就中、母校の悲惨なまでの凋落ぶりに一同啞然・呆然。事務局方の遠藤君は、校長が発言し難いような裏の裏の話をされ、同期生一同の共感を博した。また、大沼校長は在郷の同期生数人からのメッセージを持参し、席上回覧。在京の者にとっては、思いがけず土の匂い一杯のお土産に欣喜雀躍し、大沼校長の心遣いに敬服した次第で

ある。

簡単な自己紹介の後、個々に歓談する者あり、久闊を叙す者ありで話題は尽きず、談論風発・破願談笑が続く。この日会場からの眺望はスバラシク、見事なまでにライトアップされた東京タワーの威容が眼前に迫り、秀峰富士の山がビルの向こうにクッキリと浮かんで、大沼校長の前途を洋々たらしめるかのように緒々と燃えていた。かくして三時間は瞬く間に過ぎ、外は既に十六夜の月。気が付けばホテルが用意した、数々の料理はそっくりそのまま手つかずに残っている有様だった。

元応援団の梅沢和男君の音頭でエールを交わし、最後に全員起立し、校歌斉唱、続いて凶南歌・一般応援歌などを高らかに吟う。名残りは尽きず、母校の発展に熱意を燃やす大沼康哉校長に万雷の拍手と緊揮一番の意気を贈り、あわせて会員相互の更なる健闘と再会を約し、九時散会。

三十年卒の同期会

新宿に三十三名集う

30年卒 門脇 敏明

あれから四十四年。星霜を積み重ねてきた面々が、一九九九年の師走のごった返す東京・新宿に集合した。

エレベーターから降りてくる度に、繰り返される・・・

「おう、○○君だよな」

「そう、○○君だよ」

昭和三十年三月、古川高校を卒業した首都圏に住む同期生の会がもたれた。

ほぼ、二十年ほど前に、一度、上野東天紅で同期会をやって以来のもので、終始楽しい集いとなった。校歌斉唱、物故者への黙祷で始まり、後は互いに四十四年の間を埋めるかのように会話は進む。予定の時間はアツという間に過ぎ、ほぼ全員が二次会へ。

同期会開催の話は時々出ていたものの、なかなか実現できなかった。というのも日本の戦後復興の先兵となつて、仕事に東奔西走していたこともあつて実現できなかった。それが、在京古高会の総会に、同期の高橋健君が母校の校長として出席するという。高橋健君にエールを送ろうじゃないか、と同期生に参加を呼び掛けた。

その後、在京古高会、古川市四高校新年会にも多くの参加者が集まるようになった。それでもなかなか顔を見せない同期生。そろそろ企業選手の多くが「毎日が日曜日？」になり、同期生のその後が気になりだした。そこで大々的に同期会を開こうということに相成った次第。

人生八十年代を迎え、今後の二十年をいかに過ごすか、各自がそれぞれの思いを秘め、再会を約束し散会した。

出席者

- | | | | | | | | | | |
|------------|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|
| 岩間藤原戸島淵佐野藤 | 光重忠順篤英俊 | 将美良修悦広郎叔夫美久 | 庄岡小佐佐二平尾島中星 | 渡横門見佐菅曾岡門岸久 | 吉敏律英利研社代康道弘 | 郎武明実三吉一志志男弘 | 芳良五寿輝幸光和丙瑞 | 郎雄郎哉久男武彦男五穂 | 司田松藤藤階野崎田沢 |
|------------|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|



三十四年卒同期会報告

代表幹事 渡辺 義之

古高三十四年卒の同期会を去る八月二十一日(土)仙台の勝山館にて、同期生八十四名、恩師七名の参加のもと開催致しました。

母校卒業四十年の記念を祝うという名目のもと、昔の高校生時代タイムスリップしたかの如く、思い出話や各々の近況報告など大変なごやかな会となりました。出席された恩師は、大場恒一先生、鈴木弘先生、鈴木敏郎先生、庄司芳武先生、富士先生、佐藤信男先生、そして生物の千葉喜彦先生で、それぞれの先生から、四十年ぶりの御講話を賜り、感激致しました。二次会の方にも六十名近くの同期生が参加し、応援歌を高らかに合唱し、時の立つのも忘れる大変楽しい会でした。各員再会を誓いながら別れましたが、我ら同期生「心の糸」で結ばれていることを実感した次第です。



古川高校昭和34年-第11回-卒業40周年記念同期会



謹んで新年のお慶びを申し上げます

在京同窓会役員

Table of members and officers including names like 伊藤 宗一郎, 渡邊 将郎, 中鉢 泰平 and their birth years in parentheses.

明けましておめでとう... 昇龍にあやかり、少しずつでも上昇気流に乗りたいと願っています。



記念すべき二〇〇〇年を迎え、おめでとう。あれもしよう、これもやりたい、人生は可能性の追求である。同窓の皆さん、今年も一生懸命生きよう。



下記のような専門的なプログラムを30年ほど手がけて参りました。ご用命の際はお気軽にご連絡ください。

(株)インターナショナルヒューマントラベル

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204 TEL・FAX 03-5385-3693 携帯電話 090-851-58033

代表取締役社長 中鉢 泰平 昭和37年卒業

◆異文化社会における多様な学習プログラム

- *カナダCWES・ホームステイ・プログラム
*ドイツ・カナダ・ニュージーランドにおける福祉施設ボランティア体験学習
*アメリカ、カナダのカレッジ・プログラム

◆国際会議・学会、国際見本市参加等にかかわるお手伝い

- *モンテッソーリ世界大会、ベスタロッチ生誕250周年記念大会、国際教育史学会、UNIMA世界人形劇大会、WCCI世界カリキュラム協議会

◆世界の文化・芸術(音楽/演劇/博物館/衣食住文化/絵画・彫刻・陶芸)などへのご案内も手がけて参りました

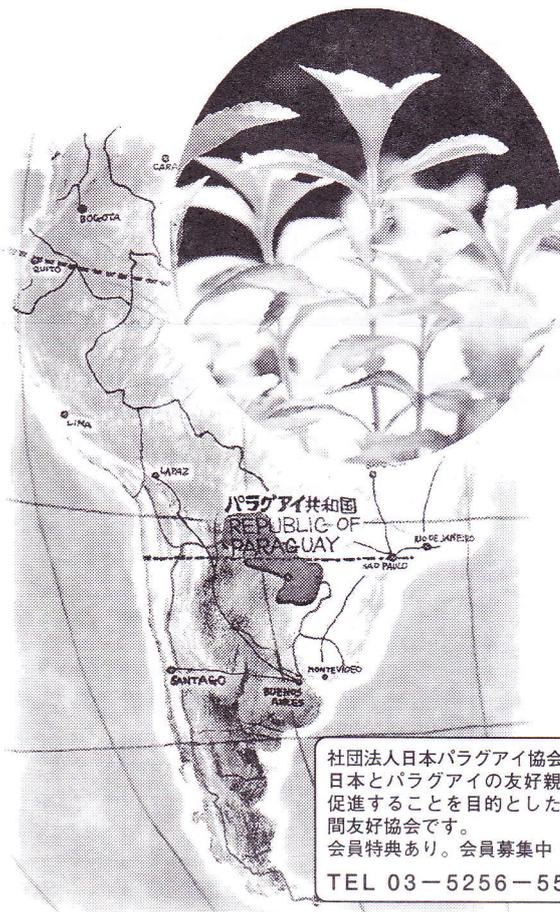
◆21世紀のための生涯学習プログラム

- *フレール・モンテッソーリ・シュタイナー・ダルクローズ
*アメリカの幼稚園教育のルーツを訪ねる
*世界各国の環境教育・多文化教育・情報教育の実践を学ぶ研修プログラム
*児童文化・世界への旅

国内/東北・関西・中部・九州・北海道 諸外国/EU諸国・北米・ロシア・豪州・南米・アフリカ・東南アジア・ハワイ

社団法人日本パラグアイ協会

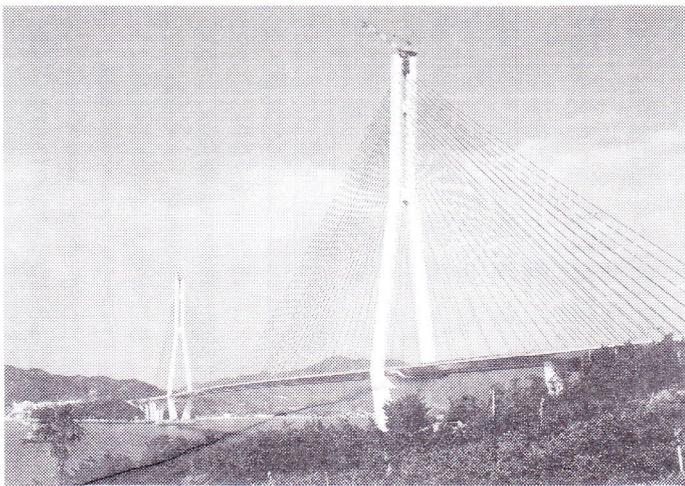
会長・衆議院議員 相沢 英之 専務理事 渡邊 将郎 昭和38年卒業



社団法人日本パラグアイ協会は、日本とパラグアイの友好親善を促進することを目的とした二国間友好協会です。会員特典あり。会員募集中!!

TEL 03-5256-5552

今日日本で注目されているステビアは、パラグアイ共和国が原産です。



多々羅大橋 (当社施工区間)

技術と品質で21世紀に飛翔する



株式会社 **宮地鐵工所**

代表取締役会長 遠山 仁一 (S.25卒)
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

Century21ハウジングセンターは、世界30ヶ国 6,500店(世界最大)のCentury21加盟店の中で世界総合第1位に輝きました。(1998年度)



「グランドステージ新小岩」

Century 21
HOUSING CENTER
[1998年度] 世界総合第1位・日本総合第1位
設計 / 一級建築士事務所東京都知事登録第42734号
建設業 / 東京都知事許可(特-9)第107899号
宅建業 / 東京都知事免許(6)第41620号
社団法人住宅産業開発協会会員
古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

100m²マンションリーディング企業

ハウジングセンター

株式会社ハウジングセンター
〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4

☎03-5430-0021

センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。

森谷建設株式会社

代表取締役 **森 谷 侑 一**

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県浦和市大字大間木2395
TEL 048-874-2910

税 理 士 青沼康男

不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805
-0014 TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

くすり、健康食品のご相談は
ぜひ当店へ!

有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩 沢 法 雄 (昭和31年卒)

〒202-0022 東京都保谷市柳沢3-2-45
TEL & FAX 0424-61-9334

ケ-ヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。

文書・図面・写真・音声・映像を簡単にCD-ROMにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
文字情報入出力 プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷

株式 会社 ケ-ヨー

代表取締役社長 早 坂 清 吉 (昭・29年卒)

本 社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店・八重洲営業所

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
卸売部 電 話 (3739) 2468
F A X (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション
HOT Line 090 32026393

子供は未来の宝、大きく育てよう

福祉・子育て相談 (秘密厳守)

いつでもどうぞ!!

社会福祉法人 エスオーエスこどもの村

理事長 佐々木武麿 (昭和35年卒)

〒193-0841 東京都八王子市裏高尾町991
TEL 0426-61-8733 FAX 0426-69-5032

情報技術で世界を結ぶ



Anritsu

アンリツ株式会社

取締役社長 **中川 裕雄**
(昭和28年卒)

本社：東京都港区南麻布5-10-27 〒106-8570
厚木事務所：神奈川県厚木市恩名1800 〒243-0032

美しい時代へ——東急グループ



株式会社 東急レクリエーション

取締役社長 **佐藤 進**
(昭和26年卒業)



港北とうきゅうS.C./109シネマズ港北

東京都渋谷区桜丘町2番9号
☎03(3462)8855

“人と企業の絆を求めて!!アウトソーシングを
支援する”
パルスタッフ株式会社

代表取締役社長 **渡邊 道雄**
S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821

立川営業所 (0425-28-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 郡山営業所 (0249-21-0990)

「不景気」「リストラ」…もういい加減にしてくれ

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 **金子 康**

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

経営経理指導 社会保険 労務管理
決算記帳代行 会社設立 許可認可申請

経営コンサルタント、社会保険労務士

青沼事務所

青沼 行雄 (昭和34年卒)
相模原市麻溝台2丁目6番30号
電話 042-744-0770
携帯電話 090-8686-9140
FAX 042-749-7230

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK

ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ 100-11階
-0031 TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
TEL/FAX 045-953-3894

在京「三一会」有志

浅野 平男 (色麻)	熊谷 正俊 (古川)
生亀 功 (池月)	菅原 陸郎 (古川)
石川 勝夫 (鳴子)	鈴木 和夫 (古川)
石堂 十六男 (長岡)	鈴木 司 (宮崎)
大内 一正 (中新田)	萩沢 法雄 (清滝)
大石 隆一 (田尻)	益子 剛 (色麻)
奥村 信良 (敷玉)	松谷 嘉男 (古川)

「三一会」の同期会を例年通り平成12年3月18日(土)

午後1時よりホテルニュー神田にて行う予定です。

多数の参加をお待ちしております。

魅惑の古河庭園。

六義園めぐり

18年卒 渡辺 三男

十月三日、危ぶまれた天候も回復して散策絶好日となった。参加者は同伴二名、古商高からのゲストを含め総員十八名。

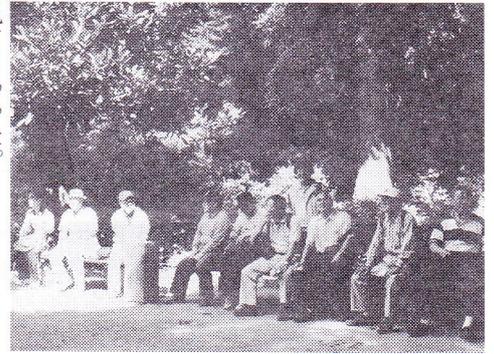
九時三十分JR上中里駅前を出発、五分ほどで旧古河庭園に到着した。この庭園は、大正六年近代日本経済の立役者と云われた足尾銅山を興した古河市兵衛の造園した庭園。真中にこじんまりした池を配した庭園は、ここが都会の真中なのかと思える静かなたたずまい。開花には少し早すぎたバラ園の散策を堪能、一時間ほどで庭園を一周した。

ついで、本郷通りに沿って十五分ほどのウォーキングで、六義園に到着した。ここは元禄十五年、川越藩主柳沢吉保がつくった庭園ときあたかも権勢をほしいままにした六代將軍徳川綱吉元禄繚乱の時代。柳沢吉保が將軍をしりば招待した庭園とあって、さすがが当時がしのばれる贅をつくりた広さ。池を一望できる小高い築山や重要文化財の月見亭・馬事場など、当時の史跡を多くゆつくり

江戸・東京 を見て歩こう会



古河庭園 義園 上右



見てまわった。

終わって十二時半すぎ、駒込駅前のそば処小松庵にて昼食。アルコールの提供もあって、自己紹介を兼ねての全員一口コメント。素晴らしいカンツォーネの披露もあって雰囲気最高。なお、発案があり、会長に伊藤守治先輩、副会長に渡辺三男が決まり、次回を楽しみに二時過ぎ散会した。

この稿執筆中、ときあたかもテレビはNHK連続ドラマ「元禄繚乱」の最終回の場面を放映していた。四十七士仇討ち成功に沸き立つ江戸市民の顔。その裏側で権勢を誇っていた柳沢吉保の没落を象徴するかのような苦渋に満ちた大写真の顔。江戸から明治、大正にわたる権勢の象徴としてのこの二つの庭園は、いま都民の憩いの場に開放されている。歴史を知る庭園は、なにを語りかけているのだろうか。奢れるものは久しぶらず。か。

参加者 伊藤守治(9)、渡辺三男(18)、菅昇(23)、松住吾(26)

岩淵瑞穂、佐藤廣、湯本良師(29)、中沢内吾(30)、佐藤公哉(二名)、32、後藤孝(34)、菅野俊次(36)、中鉢泰平(37)、渡辺将郎(38)、上野正司(39)、遠藤隆一(42)、佐藤八雄(二名・古商)以上十八名 (一)内は卒業年次です。



事務局談話室

一、主な行事は次の通りでした。

- 六七 広報委員会(最終校正)
- 六八 古高同窓会本部総会(180部)
- 六九 第一回役員会(20名)
- 七〇 第二回役員会(18名)
- 七一 第三回役員会(12名)
- 七二 第四回役員会(12名)
- 七三 古高柔道部OB会出席
- 七四 在仙古高同窓会総会出席
- 七五 (講師の伊藤会長、春田副会長、事務局長)
- 七六 第四回四校合同幹事会開催
- 七七 古高同窓会忘年会開催

編集後記

今夏初めて北海道の山へ。アイヌが「カムイミンタラ(神々が遊ぶ場所)」と呼んだ大雪、まさしく雲上の花の楽園。続く十勝岳は、今尚噴煙あがるおどろおどろしい山。日高の幌尻岳は仲間五人と。沢の徒渉、ハイマツの尾根道、八月六日、久恋の頂に。この山で百完登となる人も多いほどがジジババ。それにしてもほとんどがジジババ。余裕がないと来られない僻遠の地。

年一回の海外旅行。十一月十二日から十五日は憧憬のミャンマー(ビルマ)へ。ヤンゴン二泊のショートツアーながら羽田からの交通費を含め、五万円と超お得。黄金に輝く聖地シエダゴンパゴダ参り。人々は今も伝統のロンジー姿で自分の誕生日の仏に詣でる。年の数だけの水を仏にかけ祈る。ピョン(微笑み)も健在。ミャンマーは安全な国。

今回は十分過ぎるほどの原稿をいただいたことに、まずは感謝したい。 「母校の今」―少子化を契機としての共学化をも含めた高校存続問題は、会員にとっても大きな関心事であろう。

四校合同新年会は、久々に本会が主幹学校となる。新趣向のクラシックコンサート、四校の歌の発表、恒例の物産展、皆さんの参加をお待ちしております。最後に、会報の発行継続を支えていただいている「企業広告」に深謝いたします。



(十)